

ボランティア活動通信 No.3

令和6年9月9日

広島県立文書館では、令和5年5月から「広島県立文書館ボランティア」の活動を開始し、令和6年8月26日に活動100回目を迎えました。今年度も、9名のボランティアの皆さんが、毎週月曜日と水曜日に、昨年度から継続している古文書(有田家文書)の整理と目録作成を行っています。また、今年度は、新たに文書館の収蔵古文書の解説にも取り組んでいただいています。今回は、これまでの100回の活動の内容をまとめてご紹介します。



活動100回目を迎えた広島県立文書館ボランティアのみなさん

左から富永さん・宮原さん・渡辺さん・下向井さん・諸富さん・三浦さん・小熊さん・古田さん・久保さん

有田家文書の整理

有田家は、安芸国賀茂郡郷村(東広島市)の庄屋・割庄屋を務めた旧家です。現在、ボランティアの皆さんが文書の整理を進めており、約4,000点の未整理文書のうち、786点の文書の仮目録作成と1,985件のデータ入力を終えています。



難解な崩し字は、相談しながら読んでいます。



仮目録のデータをパソコンに入力します。

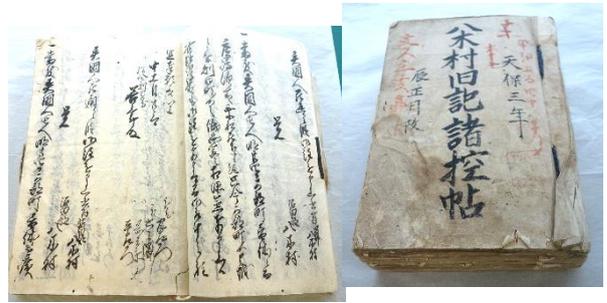


古文書の整理では、1点ずつ手書き仮目録を作成して、中性紙の封筒に収納します。

収蔵古文書解読の取り組み

今年度から、収蔵古文書の解読にも取り組んでいくこととし、7月から月1回のペースで「八木村旧記諸控帖」(天保3年)を、少しずつ読み進めています。

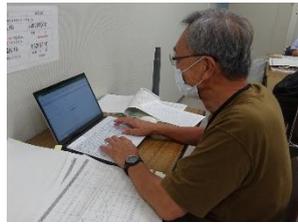
「八木村旧記諸控帖」は、旧安佐郡八木村(広島市)の村政にかかわる願書や書付類をまとめた記録(御用留)です。この旧記には、江戸時代後期の八木村での洪水の被害をはじめ、村役人の任用、雨乞い祈祷、病人送り状、五穀成就祈祷、引越願書付、異国者通行一件、麻疹流行、鎮守祭など、村にかかわる様々な出来事が記されています。



ボランティア活動のまとめ 令和5年5月～令和6年8月(1回～100回、のべ738名参加)

古文書の整理

文書群名	整理点数	入力件数
福島家文書	1477	3681
浄福寺文書	132	132
原家文書	121	121
寺岡家文書	892	1041
有田家文書	786	1985
計	3408	6960



中性紙の折込帙の作成



古文書の簡易な補修



ボランティア活動での 様々な取り組み

資料保存の専門家との連携

剥がれた題箋の糊付け

応急処置を終えた被災文書への対処

令和5年10月18・19日 国立歴史民俗博物館の天野真志氏、東京大学史料編纂所の山口悟史氏、奈良県立橿原考古学研究所の奥山誠義氏と中尾真梨子氏、安田女子大学の安田容子氏が来館され、応急処置を終えた被災文書への対処について助言を受けました。被災した屏風の下張り文書の剥離もご指導いただきました。

襖の下張り文書の剥離作業

令和5年12月11・12日、神戸大学の松下正和氏、兵庫県立歴史博物館の吉原大志氏に襖の解体と下張り文書の剥離作業をご指導いただき、ボランティアと職員で作業を行いました。令和6年1月29・30日にも、下張り文書の剥離作業と、剥離した文書の補修(裏打ち)などについて、松下氏にご指導いただきました。



応急処置を終えた文書の状態の確認と今後の対処の検討



松下氏による作業前の解説



襖の縁の計測と解体



屏風の下張り文書の剥離作業



襖下張り文書の剥離



破損した下張り文書の裏打ち